

住宅改修理由書作成の留意点

【P1（表面）】

I 「作成者」欄

被保険者が居宅介護（介護予防）支援を利用している場合で、改修業者が理由書を作成する場合は、担当ケアマネジャーの署名をもらってください。

II 「総合的状況」欄

1 「利用者の身体状況」

ア 既往歴・現在患っている病気と症状

処置内容や通院状況など、治療の経過を記載してください。

イ 身体機能の問題点と困難な生活動作

上記アの内容と紐づけて、具体的な状況を記載してください。

2 「介護状況」

ア 家族構成

配偶者や同居親族の有無を記載してください。別居であれば、訪問頻度や介護が期待できるか等も記載してください。

イ 可能な生活動作や家での役割

新聞の受取等の習慣や、炊事洗濯など担当している家事があれば記載してください。また、室内の移動や立ち座りについてもどのように行っているか記載してください。

ウ 介助量と利用中のサービス

浴室での入浴は可能か、ポータブルトイレの使用頻度はどの程度か、その他利用中の介護サービスについて詳しく記載してください。

エ 普段の行動範囲

外出の頻度や主な外出先（通院や通所、買い物等）について記載してください。また、外出時に付き添いが必要か記載してください。

オ 家屋の状況

引き戸・開き戸・和式トイレ・上がり框の段差・階段の高さ・浴室やフローリングの材質等、身体状況に見合わない点について記載をしてください。

3 「住宅改修により、利用者等は日常生活をどう変えたいか」

ア 改修する場所と改善される動作を記載してください。

イ 動作が改善されることで可能になること（理想の生活像）についても記載してください。その際、どのように本人の自立支援となっているかが分かるようにしてください。

【P2（裏面）】

1 「② 具体的な困難な状況」

症状や身体機能の問題点について、P1と矛盾の内容に記載してください。また、改修項目ごとに困難な生活動作について、具体的な状況を示してください。

裏面へ

住宅改修理由書作成の留意点

2 「③改修の方針」

改修内容と改修箇所の番号、改善される動作を記載してください。

※ 例「①玄関の上がり框に手すりを設置することで～」等

3 「④改修項目（改修箇所）」

③の記載内容、見積り、提出写真、平面図等の提出書類すべてに通番を振ってください。

【提出する前にチェック】

- 本人の自立度や理想としている生活像について理解し、自立支援の一助となる改修の提案がされているか。
- 自己負担の軽減や自立支援に資する、過度でない、最低限の改修となっているか。
- コピー&ペーストや使いまわしの表現でないか。
- 本人の状態を踏まえた改修の検討が見て取れる、独自性のある理由書になっているか。

※ 過度な改修は、介護保険適用外となる可能性のほか、本人の自立支援を損なうリスクがあります。最低限で安価な方法を検討してください。

※ 「安心安楽」や「容易になる」といった汎用性の高い表現を多用せず、改修によって実現できると考えられる生活について、個別的に記載してください。

※ 「手すりをつけたい」「段差をなくしたい」といった単なる意向ではなく、本人がどのような生活を送りたいと考え、住宅改修をするに至ったかを記載してください。

※ 傷病名やADLを加えるなど、第三者でも本人の状態像が読み取れるような表現を用い、住宅改修を行うことで期待できる成果が伝わるような理由書を作成してください。「本人を見ればわかる」などでは理由書として不十分です。必要に応じて、人が写っている写真を添付するなど、工夫をお願いします。

（例）手すりの設置：立ち上がりの際に届く位置にあるか？など、本人の身体状況に適切な位置や高さがわかる。

【注意】

明らかに内容が不十分の場合は、申請書をお返す場合がありますので、御了承ください。

その他、不明な点等ございましたら、長寿課介護保険係までご相談ください。

担当 長寿課 介護保険係

電話 0561-76-8144